

消防署見学のしおり

利根沼田広域消防本部

消 防 署 の 仕 事

火 災



消防署では、利根沼田地域で火災が発生すると、その火災の種類や状況に応じて消防車の種類を選んで出動します。

水槽付き消防ポンプ自動車1台、水槽付き化学消防ポンプ自動車1台、救助工作車1台、指揮車1台、救急車1台などが出動して消火活動や救助活動を行います。

救 急



急病人や交通事故でけが人などが発生すると、救急車が出動します。

救急車のなかには、応急手当を行うことができる道具が乗せてあります。患者さんを安全に早く病院まで搬送します。

救 助



火災・救急現場などで助けを求めている人がいるときに、出動します。

主に交通事故で車に挟まれたり下敷きになっている人を助け出したり、火災現場などで逃げ遅れている人を探したり、取り残された人を助け出したりします。

風 水 害



消防署は、火災や救急・救助の他に台風や洪水で助けを求めている人にあらゆる救助活動をしします。

また、台風などで木が倒れ道をふさいでいるときや、風で飛ばされそうな看板などの危険なものが発見されたときは、安全な処置を行うように、持ち主に注意したり消防署が処理を行ったりします。

予 防



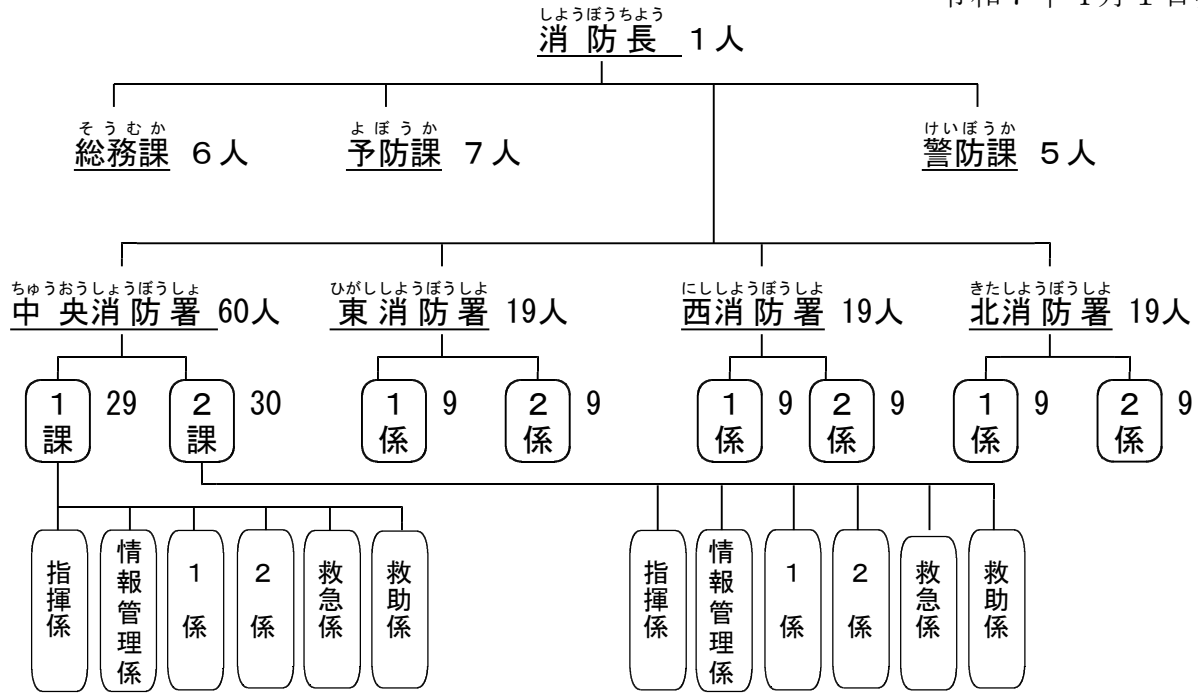
火災が起きないように、あらゆる予防の仕事を 行います。

建物を新築したり増築や改築をするときは、土木事務所などと協力します。火災が起きてしまったときに、火を消したり、避難できるように消防用設備（消火器など）を設置するよう指導します。

定期的に、お店やホテルなどに行って、建物の安全性などを確認し、火災がおきないように指導を行います。

消防署の配置と仕組

令和7年4月1日現在



<中央消防署>

場所：沼田市高橋場町2049番地1

- ・指令車 ----- 1台
- ・屈折はしご車 ----- 1台
- ・救助工作車 ----- 1台
- ・水槽付き消防ポンプ車 --- 2台
- ・水槽付き化学消防車 --- 1台
- ・救急車 ----- 3台
- ・トラック ----- 1台
- ・指揮車 ----- 1台

<東消防署>

場所：沼田市利根町平川1269番地

- ・指令車 ----- 1台
- ・多機能型消防ポンプ車 --- 1台
- ・救急車 ----- 1台

<西消防署>

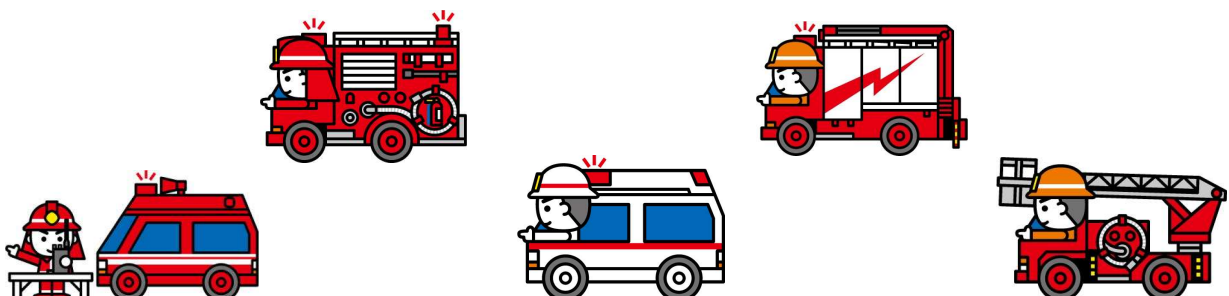
場所：みなかみ町羽場59番地4

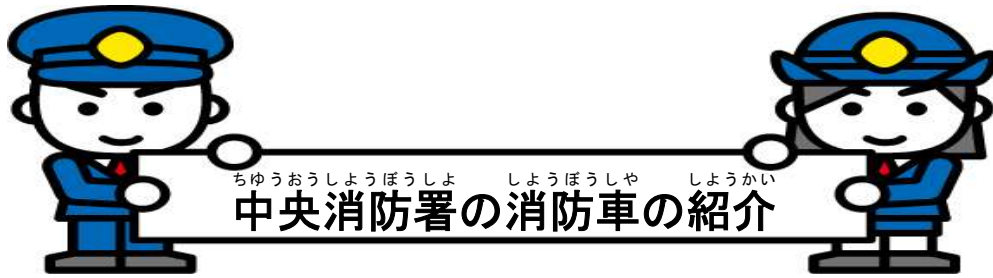
- ・指令車 ----- 1台
- ・多機能型消防ポンプ車 --- 1台
- ・救急車 ----- 1台

<北消防署>

場所：みなかみ町湯原1681番地1

- ・指令車 ----- 1台
- ・多機能型消防ポンプ車 --- 1台
- ・救急車 ----- 1台





ちゅうおうしょうぼうしよ しょうぼうしや しょうかい
中央消防署の消防車の紹介



し れ い しや
指 令 車

ぼうかこうぼう りよかん
防火広報や旅館、ホテル・ガソ
リンスタンド等の検査をします。

長さ4.77m 高さ2.1m はば1.89m
重さ2,425kg エンジン2.97L

すいそう つ しょうぼう しや だい
水槽付き消防ポンプ車（2台）

か じ ばしよ い ひ け
火事の場所へ行き、火を消したり、
火を消している車に水を送ったり
します。

長さ6.97m 高さ2.95m はば2.32m
重さ9,425kg エンジン8.2L



くつせつ しや
屈折はしご車

25メートルの高さまで塔が伸び、人を助けた
り火を消したりします。

長さ9.05m 高さ3.65m はば2.49m
重さ16,760kg エンジン8.86L





水槽付き化学消防車

ガソリンなどが燃えている時、泡を使って火を消します。
車の中には、300リットルの泡を作る液体と1500リットルの水を積んでいます。
最新鋭の消火設備を乗せています。

長さ6.75m 高さ2.85m はば2.30m
重さ10,410kg エンジン6.40L

救助工作車

レスキューの場所でウインチやクレーン、色々な機械を使って人を助けます。

長さ7.75m 高さ3.20m はば2.37m
重さ10,965kg エンジン5.12L
持ち上げられる重さ2.9t



救急車 (3台)

ケガや病気の人に手当をしながら病院へ運びます。
消防車とは、サイレンの音が違います。

長さ5.75m 高さ2.55m はば1.90m
重さ3,215kg エンジン3.27L



指揮車

火災現場に一番早く駆けつける車です。
消火方法を決めて消火隊員に伝えたり、火災現場で必要となる情報をまとめる仕事をします。
火災、救急、救助など様々な災害に出動します。

長さ5.42m 高さ2.48m はば1.88m
重さ3,230kg エンジン2.69L



た き のうがたしょうぼうしや
多機能型 消防車



この消防車は、火災や救助の現場などに活躍します。
火災現場では、直ぐに消火できるように、車に積んである1500リットルの水を使います。ガソリンなどが燃えている時、泡を使って火を消すこともできます。
救助現場では、車の中には取り残された人を助けるための救助資機材を使います。
多機能型消防車は、東消防署、西消防署、北消防署に1台ずつ配備されています。

長さ6.98m 高さ2.90m はば2.33m 重さ10,720kg エンジン5.12L



<エンジンカッター>
・鉄やコンクリートを切れます。
・建物の中に閉じこめられた人を助けるときに使います。

<チェーンソー>
・地震や土砂崩れなどで、木が倒れて、道をふさいでいるときに木を切るために使います。

<ホース>
・火を消すときに使います。
・1本の長さは20メートルです。

<送排風機>
・大きな扇風機です。
・火事の時に煙を建物の外に押し出すときに使います。

<信号機付き投光器>
・強力なライトです。
・火事で建物内に入る時や夜に活動するときに使います。

火災件数

2024 年の災害件数

火災種別		市町村	沼田 市	片品 村	川場 村	昭和 村	みなかみ 町	合 計
火災 件 数	建 物 火 災		6	0	0	4	4	14
	林 野 火 災		0	0	0	0	1	1
	車 両 火 災		2	0	0	3	0	5
	その他の火 災		3	0	2	4	6	15
	合 計		11	0	2	11	11	35

救急件数

	沼田 市	片品 村	川場 村	昭和 村	みなかみ 町	けん が い 外	合 計
件数	2,841	423	206	344	1,239	13	5,066

救助件数

区 分	こうつう 交通	すいなん 水難	かさい 火災	ふうすいしぜん 風水自然	きかい 機械	たてもの 建物	その他	合計
沼田 市	12	6	2	1	0	5	11	37
片品 村	6	1	0	0	0	0	33	40
川場 村	3	1	0	0	0	0	0	4
昭和 村	5	4	3	0	0	0	1	13
みなかみ町	12	4	1	1	0	1	30	49
けんがい 圏外	1	0	0	0	0	0	3	4
合 計	39	16	6	2	0	6	78	147

防災ヘリコプター



群馬県の防災ヘリコプターは、「はるな」という名前で、平成9年から群馬県を空から守り続けています。

防災ヘリコプターの基地は、前橋市の南側にある「群馬ヘリポート」にあって、群馬県の持ち物です。

県内どこへでも25分以内で飛んで行くことができます。

航空隊員は、県内の消防本部から選ばれた9人が3年間交代で派遣されています。

また、操縦と点検・整備は、専門の会社の人が、行っています。

航空隊の仕事

<空からの調査>

浅間山の火山活動や、台風・大雨・地震などの被害状況を調べて県や市町村、消防署にその結果を報告します。

<空からの救助>

高い山や川の増水などで帰れなくなった人や、崖崩れなどでとりのこされた人を救助します。

<空からの消火>

山火が発生したとき、ヘリコプターにタンクを取り付けて500～800リットルの水をいっきに落として火事を消します。

<空飛ぶ救急車>

遠い所にある病院まで、短時間で患者さんを搬送することができます。これまでに、青森県や滋賀県の病院まで搬送したこともあります。

前橋市にある病院まで約10分で行くことができます。



防災ヘリコプター レオナルド式AW139型の特徴

最大重量	6,800kg	長さ	16.62m
ヘリコプターの重量	4,460kg	高さ	4.98m
有効積載重量	2,340kg	幅	4.22(13.8m)
最高飛行距離	798km	定員	15名
最高速度	277km/h	エンジン	双発タービン

よくある質問

1 火事以外の時の仕事は、何をしていますか？

○予防などの事務仕事や出勤に備えた訓練をしています。

2 この仕事をしていて大変なことは何ですか？

○時間に関係なく出勤しなければなりませんので、深夜の出勤が続くと大変です。

3 火災の原因は、どうして調べるのですか？

○火災の原因を調べて、同じような火災が起きないように役立てるためです。

4 消防車は、なぜ赤い色をしているのですか？

○消防ポンプ車の第1号は外車を輸入したものでした。このときに赤く（正確には朱色）塗られていたので、消防車は赤と自然になりました。その後、法律で定められました。

5 消防車はどうやって水を出すのですか？

○消防車の中に水を出すためのポンプが入っていて、消火栓や貯水槽などの水をくみ上げて、ポンプの圧力で水を出します。消防車の中に消火用の水1500リットルを積んでいる消防車もあります。

6 救急車に乗る人は決まっているのですか？

○救急車には3名の救急隊員が乗ります。

7 救急車はなぜ白いのですか？

○最初（昭和11年）に使われた救急車が白かったからだそうです。また、赤十字社が使用している救急車が白いので区別をするために消防署が使っている救急車は赤い（朱色）ラインが入っています。

8 はしご車は、どのくらいの高さまで伸びるのですか？

○中央消防署にあるはしご車は、屈折式はしご車（スノーケル車）で約25メートルです。日本で最も高く伸びるのは、約60メートルです。

9 火事の時、どこから水を採るのですか？

○防火水槽や消火栓がほとんどですが、場合によっては水路、川、プールなどの水を使います。

10 火事を見て怖くないですか？

○怖いときもあります。

11 消火の時に着る服は溶けないのですか？

○防火服で燃えにくくなっています。利根沼田では現在、紺色の防火服と紺色の防火ズボンを使用しています。